へ13
3087
1

へ13 3087

曲亭馬琴著

乙酉孟春第一版

附クリ廻向ス唐山の小説を写生て聊も唐臭くぬ大和繪の花王

傾城水滸傳 初編 第壹

彼ス原来一百八の天罡地煞星

此ハ今昔未曾有の節婦烈女傳

并ニ世代い美人の故事を撮合して些も故めくこと水滸の夢字花

歌川豊國画

通油町鶴喜新鐫

源氏物語を下まで漫ゝ源語をいのはり漢土の俗語の解せざる者と雖水滸傳を剽竊ありの小ゝ雖も何とあるまじきの二書ハ考抄通俗元曲樺山文庫

漢土の書を編アまれ毛唐人乃婦幼の観物ふせあ遊慮さふ今戯小説の東奮漢語へ摸擬ふ要ちゝ因て天罡地煞星の一百八の草賊を賢妻烈女ふ綴り易て傾城水滸傳と命るゝ

のゝ且椋橋の亀菊が高尉小似ゝ溢觴ふ室津海の遊女巨人の夜

擬そゝ又浮沓龍衣手を九紋龍史進小擬ゝ他越路乃今半額戸隠の女鬼ふ陳達揚春小似ゝ

相似ゝる花殻の阿達尼ゞ魯智深ふ相似たる折瀧の節柴ハ柴進の儔

ある牧茅ふ逞ゝ此冊子の初編のみ是ゝの後春毎ふ毫を接條の桜木ふ鐫出もゞをふゝ

文政八年乙酉春正月新版 曲亭馬琴識

特へ13
3087
1

三熊野の仙女

無漏海

花を誘ひ
影ぞのみ
山もゑり
はこそすろ
かくもまるや
まつくむ

狂齋

角のりの
めでたの使
おもてを
うつとれ
いのそ山
頭まどゝ

歌舞

美福門院の御使
立樹局

華洛の綾桜
うみの
おぐちの
ふかさ
しる
青柳かちる
ゆきとうの
ゆめ
月を
蓑笠
浮潛龍
衣手

女郎花
戸隠の女鬼
野中の
鬼薊
たぐひ
のきて
さうでの
つぼみ
閑齋
越路の
今半
額

梁橋の亀菊
月輪のあつた
浦もうつるまつり
人のあつまるの
はづみあるき如
玄同
桜戸の尾虎

捨果て仏ハ
のとぐるまぶ
雪ふる
日の
愚山人
河豚を久ハしま
花殿の師連尼
折の瀧
柴の節

紀伊國熊野山那智の山麓室長寺の山門ふくすい使と鬼子圖

ゆやかる山中ゐ